

若年層のマネジメントに関する研究



経営学部 経営学科
准教授

● 研究内容

生産年齢人口が急減している我が国において、若年層を採用し、育成していくことは多くの企業にとって重要な問題です。しかしながら、新規学卒者の3年以内の離職率は、高卒・大卒のいずれも3割以上の高止まりが続いています。さらには、働きがいを求めるのではなく、自分の職務に対して最低限の責任だけを果たそうとするいわゆる「静かな退職」問題や「労働時間が長くなく負荷も高くなく、ストレスも感じないが成長実感もない」という新たな不安型離職が発生しています。

このような問題意識に基づき、人的資源管理論や組織行動論の立場から、若年層を対象に実証研究を進めています。特に、「個性を大切に、所属組織への社会化より私生活を充実させたい」という若年層の意識に着目しています。具体的には、(1)組織参入前に形成した期待と組織参入後の現実とのギャップであるリアリティ・ショックによる離職の低減、(2)ワーク・ライフ・バランス施策が私生活満足に与える影響、(3)就業時間以外のリカバリー経験がワーク・エンゲージメントに与える影響について研究しています。

● 想定パートナー

企業の人事部、若年層の雇用に関わる組織

● 応用分野

若年層の離職提言

若年層のワーク・エンゲージメントの向上

● 取組実績

【講演会】

・函館中央警察署「若年職員の離職防止について」(2025年3月)